

【受賞報告】 消化器外科学講座 医員 山田貴大さんが

第 55 回膵臓学会大会 Young Investigator Award を受賞しました

今回、第 55 回日本膵臓学会大会で Young Investigator Award を受賞しました。この賞は、膵臓病診療への応用という観点で将来性が高い若手研究者の研究成果を称えるものです。1 等から 3 等までの 3 人に与えられますが、2 等を受賞することができました。私は消化器外科学の大学院生であり、分子病態病理学講座において膵臓癌と糖尿病の関係性に焦点を当てた研究を行っております。今回の受賞発表は「長期糖尿病罹患は癌間質 M2 マクロファージの硫黄代謝を促進し膵癌の予後を増悪させる」というタイトルです。長期糖尿病罹患が膵癌の予後に与える影響について硫黄代謝から検討を加えたことが、新しい視点として評価されました。これまで分子病態病理学講座では、長期糖尿病罹患が膵癌の予後を増悪させることを報告してきましたが、その機序は明らかではありませんでした。膵癌では癌間質がその悪性度の決定に密接に関与しています。そこで膵癌間質のみをプロテオーム解析（サンプル内の全タンパク質を包括的に検出する手法）にかけて治療標的シグナルを探索しました。その結果、長期糖尿病合併膵癌の癌間質に存在する炎症抑制性 M2 マクロファージで、硫黄代謝に関連するタンパク質の発現が亢進していることが明らかとなりました。M2 マクロファージは膵癌の予後を増悪させる免疫細胞であるため、長期糖尿病は M2 マクロファージの硫黄代謝を亢進させ、その細胞機能を活性化させている可能性が示唆されました。以上の結果は、M2 マクロファージの硫黄代謝を標的とする新規治療法の開発に繋がる可能性があります。論文化にはまだまだ結果が足りないため、今後さらに研究を進めていくつもりです。ご指導いただいた消化器外科学講座の袴田教授、分子病態病理学講座の水上教授、ならび両講座の先生方、実験助手の方々、またプロテオーム解析を行っていただいた分子生体防御学講座の多田羅先生には厚く御礼を申し上げます。どうもありがとうございました。



消化器外科学講座 医員 山田貴大さん